

ご縁に感謝するということ（令和八年八月二十七日 加茂法話会）

柏崎市花栄寺 九里悠禅

【令和八年度 布教教化に関する告諭】

今、世界は多くの問題や課題を抱え、私たちは苦しみや悩みの多い社会を生きています。その中で人びとが宗教に求めるものは、心の安らぎと平和な世界です。

曹洞宗は、お釈迦さまと、そのみ教えを日本に伝え弘められた道元禅師、瑩山禅師じをいちふつりようそ一仏両祖と仰ぎ、歴代のお祖師さまが脈々と伝えられてきた坐禅を中心とした正しい信仰にもとづく生き方を、日々の生活に実現していくことを目指しています。

その生き方とは、あらゆる存在が「縁」えんによって成り立っていることに心の底から気づき、そこで自ずと生まれる感謝の心を、行いと、言葉と、思いにして、すべての存在に回らし向けていくことに他ほかなりません。

一杯のお茶が出されたならば、それを丁寧にいただく。而今なすべきことは、心を込めてつとめる。毎日が、かけがえのない「縁」えんと「いのち」の営みであることを自覚し、世界中の人びとが誰一人取り残されることのないよう、ともに願ひ、祈り、まずは自分自身から正しい信仰の生活を営んでまいりましょう。

合掌

「あらゆる存在が「縁」によって成り立っていることに心の底から気づくとき、自ずと感謝の心が生まれる」